

お 知 ら せ

令和8年2月13日

課 名	統計分析課 (経済統計班)	教育庁保健体育課 (健康・安全教育班)
担 当	中本、三宅	松村、井上
連絡先	(調査及び統計数値) 内線 2134 直通 (086) 226-7261	(左記以外教育一般施策) 内線 4948、4949 直通 (086) 226-7591

「令和7年度 岡山県学校保健統計調査 結果報告書」の公表について

このたび、「令和7年度 岡山県学校保健統計調査 結果報告書」（以下「報告書」）を作成しましたので、お知らせします。

学校保健統計調査は、学校における幼児、児童及び生徒について、発育及び健康の状態を明らかにすることを目的に、国（文部科学省）が実施する基幹統計調査です。

本報告書は、国が本日公表した学校保健統計のデータを基に、県においてわかりやすく加工・集計したものです。

記

1 調査項目等

- ・発育状態：身長、体重、年間発育量、肥満・痩身
- ・健康状態：むし歯、アトピー性皮膚炎、ぜん息、裸眼視力
- ・比較項目等：前年度・全国平均・親世代（平成7年度）との比較、男女別、年度別

2 報告書の概要（括弧内は別添報告書記載ページ）

（1）身 長（報告書P2-3, 30-33）

- ・平均値推移：親世代以降横ばい傾向
- ・前年度比較：男子は、17歳で同じ、5歳、6歳、9歳、11歳で上回り、他の年齢で下回っている。
女子は、9歳で同じ、6歳、10歳、12歳で上回り、他の年齢で下回っている。
- ・過去最高値：女子9歳（2年連続）
- ・全国比較：男子は、5歳、6歳で上回り、他の年齢で下回っている。
女子は、6歳で同じ、9歳で上回り、他の年齢で下回っている。
- ・親世代比較：男子は、7歳、8歳で同じ、16歳、17歳で下回り、他の年齢で上回っている。
女子は、5歳、8歳で同じ、6歳、13歳、14歳、15歳、16歳、17歳で下回り、他の年齢で上回っている。

(2) 体 重 (報告書 P4-5, 34-37)

- ・ 平均値推移 : 親世代以降横ばい傾向
- ・ 前年度比較 : 男子は、7 歳、8 歳、10 歳、17 歳で下回り、他の年齢で上回っている。
女子は、13 歳で同じ、7 歳、9 歳、11 歳、14 歳、15 歳、17 歳で下回り、他の年齢で上回っている。
- ・ 過去最高値 : なし
- ・ 全国比較 : 男子は、6 歳で同じ、他のすべての年齢で下回っている。
女子は、5 歳、6 歳、8 歳で同じ、11 歳、12 歳、13 歳、14 歳、15 歳、17 歳で下回り、他の年齢で上回っている。
- ・ 親世代比較 : 男子は、6 歳で同じ、5 歳、7 歳、14 歳、15 歳、16 歳、17 歳で下回り、他の年齢で上回っている。
女子は、7 歳で同じ、6 歳、12 歳、13 歳、14 歳、15 歳、16 歳、17 歳で下回り、他の年齢で上回っている。

(3) 年間発育量 (平成 19 年度生まれ (令和 7 年度 17 歳)) (報告書 P6-7)

- ・ 身 長 : 男子は 11 歳時に、女子は 9 歳時に発育量が最大になっている。
- ・ 体 重 : 男子、女子共に 11 歳時に発育量が最大になっている。

(4) 肥満・痩身傾向児の割合 : 全国との比較 (報告書 P8-9, 38-39)

- ・ 肥満傾向児の割合 : 男子は、5 歳、8 歳、9 歳で上回っている。
女子は、5 歳、7 歳、8 歳、9 歳、11 歳、15 歳、16 歳で上回っている。
- ・ 痩身傾向児の割合 : 男子は、6 歳、7 歳、8 歳、9 歳、13 歳、14 歳、15 歳で上回っている。
女子は、9 歳、14 歳、16 歳、17 歳で上回っている。

(5) むし歯 (う歯) の被患率 (報告書 P10, 40)

- ・ 被患率推移 : 幼稚園は過去 2 番目に小さく、小学校、中学校、高等学校は過去最も小さい値となっている。
- ・ 前年度比較 : 小学校、中学校、高等学校で下回り、幼稚園で上回っている。
- ・ 全国比較 : 小学校、中学校、高等学校で下回り、幼稚園で上回っている。
- ・ 親世代比較 : 幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも下回っている。

(6) アトピー性皮膚炎の被患率 (報告書 P11, 41)

- ・被患率推移：幼稚園は過去最も小さい値で、中学校は過去最も大きい値となっている。
- ・前年度比較：幼稚園、小学校で下回り、中学校、高等学校で上回っている。
- ・全国比較：幼稚園で下回り、小学校、中学校、高等学校で上回っている。

(7) ぜん息の被患率 (報告書 P12, 42)

- ・前年度比較：幼稚園、中学校、高等学校で下回り、小学校で上回っている。
- ・全国比較：幼稚園で下回り、小学校、中学校、高等学校で上回っている。
- ・親世代比較：幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも上回っている。

(8) 裸眼視力 1.0 未満の者の割合 (報告書 P13, 43)

- ・割合の推移：小学校、高等学校で増加傾向にあり、また、年齢が高くなるにつれて大きい値となっており、高等学校は過去 2 番目に大きい値となっている。
- ・前年度比較：中学校で下回り、小学校、高等学校で上回っている。
- ・全国比較：中学校で下回り、小学校、高等学校で上回っている。
- ・親世代比較：小学校、中学校、高等学校のいずれの区分でも上回っている。

参 考：学校保健統計調査の概要

(1) 調査対象

調査実施校に在籍する満 5 歳から 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部

(2) 調査方法

文部科学大臣が指定した県内 163 校（園）の抽出調査

※調査実施校は毎年見直しを行っている。また、発育状態は調査実施校の各学年に在籍する者のうち 13,412 人を抽出し、健康状態は全員（71,450 人）を対象に調査を実施している。

(3) 調査時期

令和 7 年 4 月から令和 7 年 6 月の間に実施